

再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担当課：道路局高速道路課

担当課長名：吉岡 幹夫

事業名 <small>きんきじどうしゃどう じょうよう たかつきだいいち</small> 近畿自動車道（城陽～高槻第一JCT）	事業区分 高速自動車国道	事業主体 西日本高速道路(株)	
起終点 自) 京都府城陽市寺田金尾 至) 大阪府高槻市原	延長 1.4 km		
事業概要 近畿自動車道名古屋神戸線（新名神高速道路）は新東名高速道路と一体となって、三大都市圏を相互に結び、人の交流と物流を支える大動脈として、日本経済を牽引するとともに、東名・名神高速道路の代替機能を果たす上で不可欠な路線である。			
城陽～八幡：H9年度事業化 八幡～高槻第一JCT：H10年度事業化		H7年度都市計画決定 城陽～八幡：H10年度用地着手 八幡～高槻第一JCT：H12年度用地着手 城陽～八幡：H21年度工事着手	
全体事業費 約5,263億円		事業進捗率（城陽～八幡） 63% （八幡～高槻第一JCT） 2%	
計画交通量 約34,800～44,200台/日		供用済延長 —km	
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.8 (残事業) 2.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 3,334/4,516億円 (事業費：3,212/4,393億円 維持管理費：122/122億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 8,239/8,239億円 (走行時間短縮便益：7,565/7,565億円 走行経費減少便益：595/595億円 交通事故減少便益：78/78億円)
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=2.2～2.7（交通量±10%） 事業費変動：B/C=2.3～2.7（事業費±10%） 事業期間変動：B/C=2.4～2.6（事業期間±1年）			
事業の効果等 <ul style="list-style-type: none"> ・国土・地域ネットワークの構築(当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する) ・災害への備え(緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する) ・物流効率化の支援(農林水産業を主体とする地域から大都市圏への農林水産品の流通の利便性向上が見込まれる) 他13項目に該当			
関係する地方公共団体等の意見 京都府知事の意見： 対応方針（原案）案のとおり、引き続き事業を推進し、一日も早く全線完成されたい。 大阪府知事の意見： <ul style="list-style-type: none"> ・新名神高速道路は、新たな国土軸として我が国の成長、国際競争力の強化に資する高規格幹線道路であり、大阪都市圏が東西二極の一極を担うための広域交通インフラとして、早期供用を目指し、重点的に整備を行うことが極めて重要である。 ・また新名神高速道路の整備は、沿線地域のみならず高速道路ネットワークを經由し、府域全体の企業立地や産業集積等の地域活性化に大きく寄与することから、その早期供用に強い期待を寄せている。 ・本府としても、貴社と連携し、工事着手に向けた地元協議や、用地買収及び文化財調査を受託するなど、新名神高速道路の事業促進に積極的に取り組んでおり、貴社においては引き続き、近畿自動車道名古屋神戸線（高槻第一JCT～神戸JCT）については目標としている平成28年度供用、（八幡～高槻第一JCT）については平成35年度供用に向け、事業推進に取り組まされたい。 			
事業評価監視委員会の意見 <ul style="list-style-type: none"> ・「事業継続」とする対応方針（原案）については、了承された。 <委員からの主な意見> <ul style="list-style-type: none"> ・新名神高速道路（近畿自動車道名古屋神戸線）は国土軸の一部として広域的な高速道路ネットワークを形成し、リダンダンシー機能の強化や多量の物流を担うなど、当該道路の整備の必要性は非常に高い。 ・中国自動車道や名神高速道路では多くの渋滞が発生している状況にあるが、新名神高速道路の整備により、それらの渋滞が大きく緩和されることが期待される。 ・関西文化学研都市での研究材料をSPring-8に運んで分析するなど、科学技術分野の発展のためにも新名神高速道路の早期整備が必要である。 			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 同路線の亀山JCT～草津田上IC間が平成20年2月に供用を開始した。 第二京阪道路（枚方東～門真JCT）が平成22年3月に供用を開始した。			

事業の進捗状況、残事業の内容等

<城陽～八幡>

現在本線工事に着手しており、引き続き事業を進めていく。

<八幡～高槻第一JCT>

現在調査・設計に着手しており、引き続き地元設計協議・用地取得を進めていく予定である。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

<城陽～八幡>

現在本線工事に着手しており、引き続き事業を進めていく。

<八幡～高槻第一JCT>

現在調査・設計に着手しており、引き続き地元設計協議・用地取得を進めていく予定である。

施設の構造や工法の変更等

地元設計協議などの事業進捗に合わせ、設計並びに施工計画等の精度を上げていくとともに、新技術・新工法の採用や現地の状況変化も確認しながらコスト削減を図っていく。

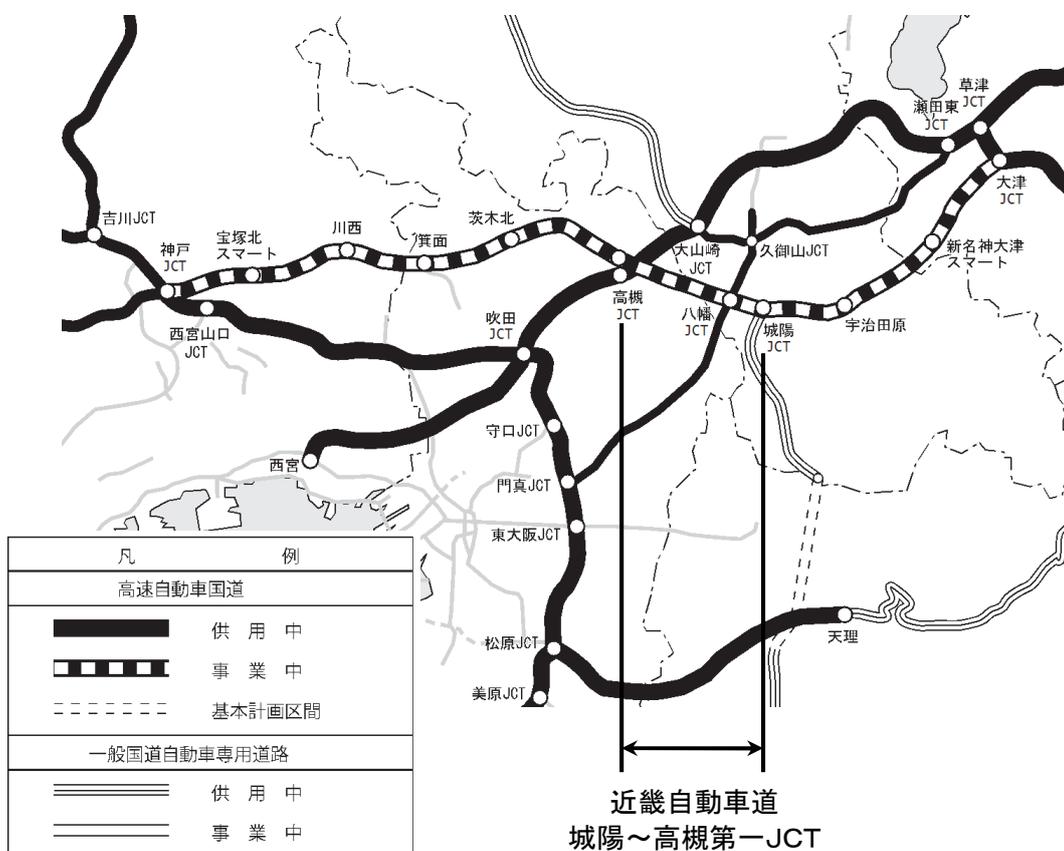
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
 ※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。